

## ○ サッカースタジアム検討協議会スタート！

第1回サッカースタジアム検討協議会が6月6日(木)に市役所で開催された。広島市、広島県、広島商工会議所、県サッカー協会が合同設置した協議会では、建設地や規模、建設主体や管理運営方法等を議論し、来年3月頃に中間報告を、来年秋に最終報告を取りまとめる。

今回は初回であり、会長に広島修道大学の三浦浩之教授を選出し、サッカースタジアム整備に係る諸課題の確認と今後の議論の進め方について意見交換がなされた。委員の構成はスポーツ系の組織代表5名とまちづくり系の学識経験者5名、女性の有識者1名の計11名である。



サッカースタジアム検討協議会

### \*コメント\*

サッカー関係者は先に建設地を絞って議論すべきと迫り、まちづくり系の委員は広島におけるサッカー文化のあり方について認識を共有するのが先決という。どうも議論がかみ合いそうにない。サッカー関係者は自分たちのことしか頭に無いようで、広島市民としての立場も念頭に置いて議論に参加してほしい。

## ○ 旧球場跡地、民間利用の貸し出しスタート！

広島市は9月から旧市民球場跡地を民間にも利用できるようにした。市の公園条例の貸し出し基準を緩和し、自治体等の公的な利用だけでなく、公共団体の後援または協賛等があれば、民間事業者にも原則無料で貸すことができる。

民間開放の第一弾として、9月6日から16日まで「広島オクトーバーフェスト」が開催された。広島日独協会等のイベント実行委員会による本場ドイツのビール祭りを模したものである。第2弾、3弾とイベントが予定されており、旧市民球場跡地を中心とした賑わいが戻ってきそうだが、但し、市内の別地の賑わいがここに移っただけでは意味がない。外部からの来訪者が見込まれる企画が期待される。

当面、旧市民球場跡地の利用が正式に決まるまでの暫定的な処置のようだが、いろいろと市民が利用していく中で、旧球場跡地利用のあるべき姿が見えてくるような気がする。

### \*広島オクトーバーフェストに参加して\*

「オクトーバーフェスト」は、ドイツ・ミュンヘンで毎年秋に開催されている世界最大のビール祭りで、最近では日本でも東京を始め、各地で類似イベントが開催されている。今回は中四国初のドイツビールの祭典と銘打っている。

9月6日(金)15時、オープンセレモニーもなく開場し、待ちわびた市民約200名が入場する。

旧球場跡地の半分ぐらいしか利用されておらず、仮設テントの屋根も低く、予想していた会場のイメージより控えめだ。11日間の短期イベントであり、広島の都市規模から想定して、採算の取れる投資規模ということか。

ジョッキを片手にドイツの食や文化を楽しめるならよいが、ビアガーデンと同じなら意味はない。どうであろうか？仕事帰りの会社員達、若いカップル、家族連れ等、会場は人で溢れていた。帰り際、ほろ酔い気分であつとドームを見上げ、今の幸せを実感する。少なくとも電車通り側の仮囲いは早く撤去できないか。



## ○中央公園エリアでフードフェスタ!

広島市中央公園内で10月26日(土)と27日(日)、ひろしまフードフェスティバルを始め、てっぱんグランプリやぺあせろべ、菊花展等のイベントが集中し、約81万人の人出で賑わった。フラワーフェスティバルが3日間で約180万人だから、エリアを勘案するとほぼ同じ混み具合である。

このフードフェスタに開催回数の冠が付いていないので、紐解いてみた。広島県が主体となって県内の農林水産物や特産品など食文化を一堂に集めた「第1回フードフェスタ広島」が1996年2月に広島グリーンアリーナで開催されている。その前身は1956年頃スタートした「農業祭」である。

一方、中国放送の開局35周年を記念して1987年に「広島城秋祭り」がスタートし、護国神社前広場にステージを組んでショーを見せたり、その周囲に「田舎を飲み食い語る会」のブースを出していた。

この「フードフェスタ広島」と「広島城秋祭り」が統合して、2005年から今の「ひろしまフードフェスタ」になった。今回で第9回目ということになる。行政サイドと民放がタッグを組むと強力である。年々内容が充実し、エリアも拡大している。

今年から旧市民球場跡地で第4回の広島てっぱんグランプリが開催。惜しいことに中央公園の芝生広場で行われた国際交流イベント「ぺあせろべ」は30回目の今年が最後となった。

今後益々市民に利用され、親しまれる中央公園であって欲しい。



フードフェスタ



てっぱんグランプリ



ぺあせろべ

## ○旧市民球場跡地、公園として一般開放!

現在、球場跡地は仮囲いをしてイベント等の開催中以外は閉鎖されている。これまで菓子博、オクトーバーフェスト、鉄板グランプリ等が開催されたが、基本的に入場料が必要だった。

4月からは公園として一般開放される。最終的な活用方針が固まり、整備が始まるまでの暫定的な処置である。休憩用のベンチ8基を設置し、仮囲いも一部透明パネルに取り換え、4か所の出入り口も午前10時から午後5時までの開放時は自由に入出りできる。

イベント等も可能だが、今のように主催団体から広島市に申請して許可を得る手続きはハードルが高い。市民団体等により構成された管理運営母体を組織し、市から委託を受けて自主的に運営できる体制作りが急務である。

現在、そのような動きがある。次のトークセッションでも語られているように、市民的な盛り上がりの中で管理運営組織を整備し、公園として有効に活用していけば、球場跡地のあるべき姿が見えてくる。



○サッカー場建設5候補地に絞る！

第10回サッカースタジアム検討協議会（\*）が3月26日に市役所で開催され、4月10日に中間報告書を知事、市長に提出。5か所の候補地と複合型施設を提案。今後、秋の最終報告に向けて、候補地の更なる絞り込みと規模や財源等の管理運営方法等について検討する。そのために市民の意向調査やスタジアム建設に伴う経済波及効果等の分析を専門家に依頼する。



TSS テレビ（3月27日放映）

建設候補地 ①中央公園自由・芝生広場、②旧市民球場跡地、③広島みなと公園、④県営広島西飛行場跡地、⑤広島広域公園

\*検討協議会は広島県、広島市、広島商工会議所、県サッカー協会が合同設置したスタジアム建設について話し合う有識者の協議会

\*コメント\*

昨年の6月に第1回目の検討協議会をスタートさせ、10回目で候補地5か所に絞り込んだのはスローペースと言わざるを得ない。そもそも広島広域公園は他都市のスタジアムと比較して交通の便が悪く、サッカースタジアムとしても相応しくないため、利便性の良いところに専用スタジアムを建設したいというのがスタートラインだったはずである。広島広域公園を残しているのは地元住民の移転反対の声を反映か。

旧市民球場跡地は利便性が最もよく、何を誘致しても成功の可能性が高いが、サッカースタジアムである必然性は低い。そこは特定の同好グループに限定される使われ方をすべきではない。市民球場でさえ立ち退いたところである。

検討協議会としては、この2か所を除外するのが妥当と思う。ただ、広域公園のビッグアーチからサッカーの試合を除けば、その存在価値が希薄となることも確かである。また、アストラムラインが西広島駅まで延伸すれば、交通の便も改善される。検討協議会とは別の次元で判断が問われているのではないか。

なおサッカースタジアムの建設地については編集委員の間でも議論が分かれるところである。検討協議会は近々市民アンケートを行うようだが、くれぐれも幅広い市民の声が反映されるように留意願いたい。一時的なムードに流されるのではなく、その立場の人が全責任を負って英断を下すべきである。

○サッカー場建設3候補地に絞る！

官民共同の検討協議会によりサッカースタジアムをどこに建設すべきか検討がなされ、優劣を比較して①広島みなと公園②旧市民球場跡地③中央公園自由・芝生広場の順位が示された。

候補地3カ所の評価	用地条件	環境条件	アクセス	けん引性	発信性	付加機能	周辺機能	波及効果	コスト性	迅速性	予来場者	整備費
中央公園自由・芝生広場(7.9%)	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	1万7400人	約146億円
旧市民球場跡地(3.9%)	△	○	○	○	○	△	○	○	△	△	1万7400人	約194億円
広島みなと公園(8.4%)	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	1万5600人	約143億円

【注】スタジアムは日本代表の公式戦が可能で、日本サッカー協会の「スタジアム標準」にあるクラス1(2万~4万人収容)の3万人規模を想定

中国新聞（10月25日付）より

11月に最終の協議会を開き、報告書をまとめる予定。

\*コメント\*

検討協議会に建設地を決定する権限はもともと与えられていない。サッカースタジアムを中心に据えて候補地を選定し絞り込んでいるが、まちに求められるものはサッカースタジアムだけではない。必要と思われる他の用途と合わせて、将来のまちづくり全体のバランスを

考えた総合的判断がなされるべきである。また候補地となった敷地サイドからのあるべき姿が全く無視されている。まちづくりの専門家によるもっと踏み込んだ検討をすべきである。

## ○旧市民球場跡地に『ひろしましみんなひろば』を提案

世界遺産ひろしま原爆ドームを擁する広島平和記念公園から基町高層住宅・広島城に至る一帯は、隣接する本川と合わせて約200mの広がりがあり世界に誇る都心のコア空間である。

被爆当時、草木も生えないと言われ、70年目を迎える現在にあって日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会（委員長前岡智之）が、被爆100年を目標としたこの地区のあるべき姿「ひろしましみんなひろば」を提案している。

その中間報告が去る9月23～28日に岡山市で開催されたJIA公益社団法人日本建築家協会の全国大会と10月12～13日広島市で開催されたひろしま住宅・建築フェスティバル2014において提案・展示された。

そこでは、この地域の抱える7つの問題点を抽出し、それらを解決するための提案を行うとともにランドデザインとしてまとめている。

- 提案①『バスセンターの整備』
- ②『回遊性の向上』
  - ③『河岸民有地を公園に』
  - ④『新しい都市施設』
  - ⑤『河川街の整備』
  - ⑥『基町高層住宅の再整備』
  - ⑦『リバーウォークの拡充』

中でも再整備の決定が急がれる広島市民球場跡地のあるべき姿としては、誰もがいつでも自由に利用できる、当り前の市民生活が継続する中で、そこで培われるホスピタリティの醸成により、国際平和を希求するという視点から「ひろしましみんなひろば」に至ったとしている。本誌では、今後の展開に注目し、追跡していくこととしたい。



ひろしま住宅・建築フェスティバル展示ブース



ひろしましみんなひろばイメージ図（ビデオより）



展示模型

○市が旧市民球場跡地整備イメージ発表！

広島市は旧広島市民球場跡地に屋根付きイベント広場を中心とする整備案を正式に発表。一方、サッカースタジアム建設の検討協議会の報告書は候補地として球場跡地と広島みなと公園（南区）の2案を併記している。

サッカー場は県、市、商工会議所の職員による作業部会で7月頃までに候補地を一つに絞り、球場跡地が選ばれた場合は県知事と市長のトップ会談で決めるという。

市の整備案は2013年3月に示された活用方針に基づくもので、「緑地広場」、「文化芸術」、「水辺」にゾーニングされ、にぎわい創出のために屋根付きイベント広場を中心に野外ステージやこども広場等を配置しているのが特徴。

一部残るライトスタンドは撤去する予定だが、早くも反対運動が起きている。

<コメント>

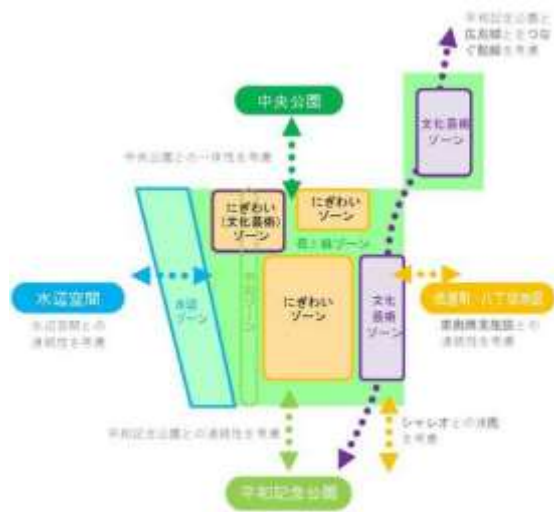
市の発表の前に、当時サンフレッチェ広島社長の小谷野氏は4月の市長選に立候補を表明し、サッカースタジアムを球場跡地に誘致してまちづくりの核に据える意向だ。松井市長も立候補を表明し、その後、今回の整備案を発表した。

球場跡地はサッカー場か屋根付き広場かが市長選の争点の一つになりそうだ。

サッカー場は反対だが、市の案でいいかと問われれば、疑問符が付く。エリア内に収めることに汲々として向辺とのつながりやムカりに欠けている。市の担当者とコンサルで内部的に検討するのではなく、球場跡地の基本理念を問う公募型プロポーザル方式により設計者を選定してはどうか。多くの提案の中から周知の中で最も優秀な提案者を特定することにより、多くの市民が納得できると思う。



旧市民球場跡地整備イメージ図



ゾーニング図（広島市のHPより）